

# 乳がん患者会「あけぼの会」 悩みに寄り添い40年

乳がんの患者会「あけぼの会」が創立40周年を迎え、東京都内で記念大会を開きました（10月14日）。創立時から会長を務めてきたワット隆子さんを務めてきたワット隆子さん（78）は勇退します。活動してきた40年を振り返りました。

須藤紀江記者



の患者さんに寄り添い、相談にのり、助け、励まし合う活動を続けています。すべてボランティアです。自分が助けられて元気になった、だから今度は、私が支えたい。そんな心と行動があけぼの会を発展させてきました。乳がん専門医に顧問となつてもらい、行政からも頼りにされる患者会になっていきます。

あけぼの会の強みは、多くの都道府県に支部があることです。今は、2007年から、12の支部が、そして今後は23のすべての支部がそれぞれ独自の活動を展開していきます。あけぼの会は医師と患者とがよい関係を築くようになっています。

あけぼの会は23の都道府県に支部があります。「今困っている患者のために」とそれぞれの地域

私（患者）は、患者（体験者）同士が支え合う患者会の役割は終わらないと思っています。なかでも大事なものは、対面や電話での精神的支援ではないでしょうか。

あけぼの会は23の都道府県に支部があります。「今困っている患者のために」とそれぞれの地域

創立以来の会長を勇退 **ワット隆子**さん



撮影・野間あきら記者

体験者が支え合い、医師と協力して

## わかりやすく最新情報発信

わっと・たかこ＝1940年生まれ。69年にイギリス人のアンドリュー・ワット氏と結婚。77年、乳がん手術。78年、乳がん体験者の会「あけぼの会」をつくる。エイボン女性教育賞、保健文化賞（第一生命）、テレサ・ラッサー賞、日本対がん協会賞（団体）など受賞

機会に患者の立場からの要望、患者の思い、苦しみ伝えてきました。私たちがどんなときも

医療側には、あらゆる機会に患者の立場からの要望、患者の思い、苦しみを伝えてきました。私たちがどんなときも

あけぼの会は基本的な医学知識や最新の情報をインターネットも活用しながら、わかりやすく発信しています。このことはますます必要になっていくでしょう。



会場からは感謝の声が上がり、「ありがとう」という横断幕が掲げられました（あけぼの会提供）  
※あけぼの会事務局 〒812-0044福岡県福岡市博多区千代5の1の4の620 / 電話・ファクス092(651)1751(月、火、木午前10時半～午後4時) / akebonokai.since1978@gmail.com

医師たちに対する尊敬の念を忘れていません。これが伝わるから、医療者たちも真剣に対応してくださると思っています。医療者がいなければがんは治療できません。患者と医療者が互いに尊敬し合う、いい関係を発展させていくことがとても大切なと思います。

大会に700人参加

90年代に入ると、医師が患者にがん告知するようになり、病状を伝え、医師と患者が情報を共有して、共にがんをたたかうためです。治療法についても患者が主体的に決めるようになってきています。

ただ、患者が主体的に治療を決めるといっても、これは簡単なことではありません。決める裏付けとなる医学知識が必要です。医師の話から自身の病気の状態を正確に理解しなければなりません。

あけぼの会は基本的な医学知識や最新の情報をインターネットも活用しながら、わかりやすく発信しています。このことはますます必要になっていくでしょう。40周年となる今回の大会は、全国から700を超す会員と一般の乳がん体験者、家族、医療者が集まりました。本場に多くのみなさんが参加してくださって感激しました。共にがんばってくれた全国の会員のみなさんに心からのお礼を申し上げます。